

黒田 篤史 (くろだ あつし)

活動地域：奈良市東部地域おこし協力隊

支援可能な地域： 全国

現在の所属（役職）：奈良市東部地域おこし協力隊

- ・柳生茶屋 店主 <https://www.facebook.com/yagyuchaya/>
- ・奈良市の隠れ里 Nyu farm 実行委員会 理事 <http://narashinyu.jimdo.com/>
- ・柳生花菖蒲園復活プロジェクト 理事 <http://yagyusyobuen.jimdo.com/>
- ・柳生観光協会 Web管理者 <http://www.yagyukanko.com/>
- ・水都OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト 理事 <http://www.suito-osaka.net/>
- ・東部山間連絡協議会
- ・経営コンサルタント・地域コーディネーター
- ・着地型旅行の企画・主催

## アドバイザー可能な分野

- ・地域おこし協力隊の募集、アドバイザー、コーディネーター（岡山県勝央町で実施）
- ・行政-協力隊の調整の進め方（協力隊のルール作り、予算取得・経費の活用方法等）
- ・協議会などの団体設立に向けた支援（柳生地区内3つの団体設立、岡山県勝央町）
- ・助成金の取得支援・企画書等の作成（協力隊業務として5つの助成金を取得うち3つは公開プレゼン資料の作成・プレゼンの実施）
- ・経営コンサルティング全般（経営診断、事業計画、営業企画、実務支援＜法人・個人・地域営業および接客等）

※具体的な支援メニューとしては以下の通り

### ①行政

- 総合計画策定支援（重点課題の整理、関連団体との協議、マーケティング調査、基本構想の策定、戦略プロジェクトの立上げ、基本計画・実行計画の策定）

### ②地域おこし協力隊・地域

- 地域戦略研修（効果的な地域の入り込み方、巻き込み方、団体の立上げ方、地域戦略の立案、会議のすすめ方）

### ③企業

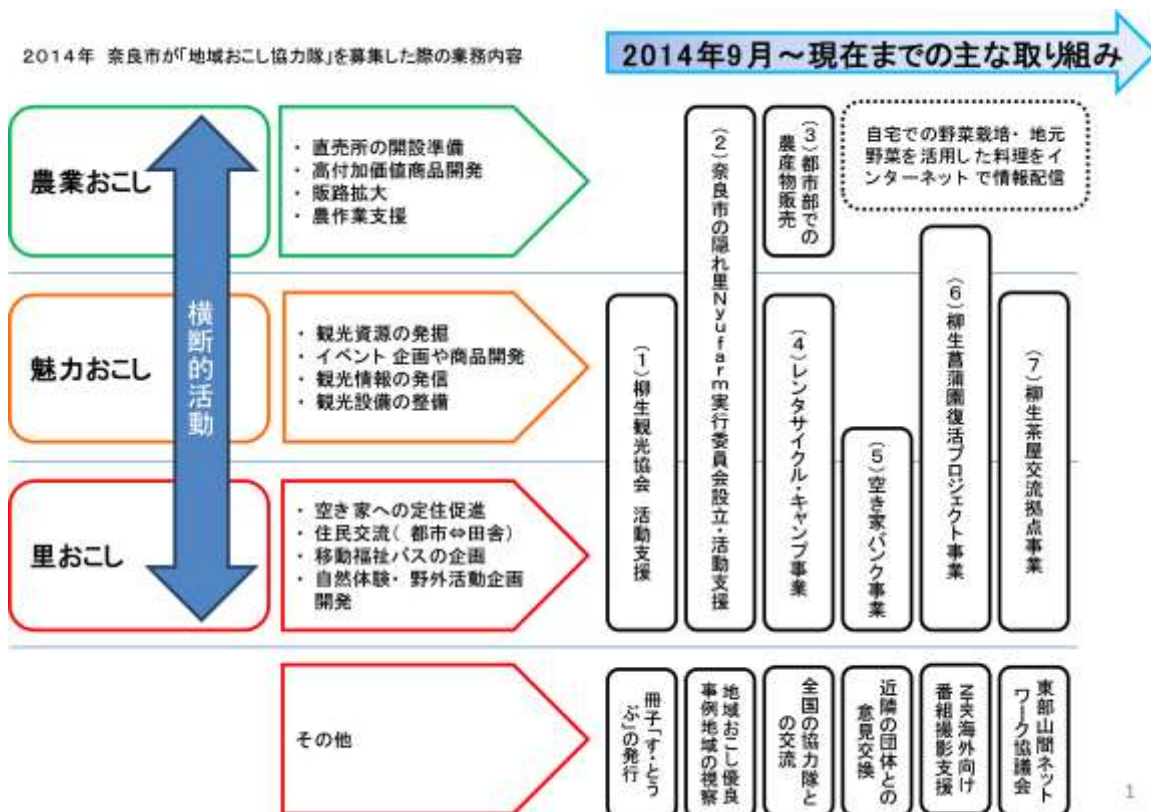
- 経営戦略、営業戦略、組織の再確立、店作り・売り場づくり研修
- エリアマーケティング研修
- 覆面調査に基づく、現場指導

○ワークショップを通じた、企画・商品開発会議など

○法人営業研修（ターゲット、アプローチ、ヒアリング、提案、差別化、クロージングのスキルアップ）

○接客応対研修（ビジネスマナー、電話応対、クレーム対応、ヒアリング、提案、差別化、クロージングのスキルアップ）

## 地域での活動



### 1. 奈良市東部地域おこし協力隊としての業務

自己 PR 得意分野やアドバイザーの抱負

## 2. 業務別の具体的な取り組み

- (1) 柳生観光協会 活動支援・・・「柳生観光協会のホームページ」を起点とした柳生の魅力発信や観光者増加の取り組み。県・市・柳生観光協会3者共同でのツアー開発。NHKにて柳生を紹介・世界へ配信
- (2) 奈良市の隠れ里Nyufarm実行委員会設立・活動支援・・・大和高原の主要産業である「大和茶応援事業」と「里山づくり事業」「大和高原の歴史探求」の3つの事業を通じて、地域と都会との交流を図ることを目的として設立
- (3) 都市部での農産物販売・・・東部山間で作られた野菜の販売（グランフロント大阪、各イベント等での出店）
- (4) レンタサイクル・キャンプ事業・・・(旧)興東中学校でのキャンプイベントやレンタサイクルなど体験を通じた農村交流イベントの実施
- (5) 空き家バンク事業・・・柳生地区における空き家の活用および空き家バンク関わる支援
- (6) 柳生菖蒲園復活プロジェクト事業・・・閉館に追い込まれた柳生菖蒲園の復活プロジェクト。無事オープン。新たに近隣高校と看板製作プロジェクトを実施中
- (7) 柳生茶屋交流拠点事業・・・閉店した柳生茶屋を活用した都市農村交流拠点プロジェクト、地域の方とDIYを行い改修。営業許可取得。2016年11月正式オープン

## 自己PR 得意分野やアドバイザーの抱負

旅行会社を7年、経営コンサルタントを11年勤め、2014年9月1日より、奈良市東部地域おこし協力隊に着任いたしました。

私のモットーは「現場主義」です。

協力隊を通じて感じた3者のズレを整理しますと・・・

①行政：

- ・地域全体への取組をして欲しい（個人介入不可）
- ・行政と地域のパイプ役として担って欲しい
- ・3年間は公務員として雇用するが、それ以降の支援方針明確になっていない
- ・民間の経験が少なく、具体的なアドバイススキルは低い

②（主に）地域おこし協力隊：

- ・立場上は公務員であるため、活動内容が限定される
- ・実収入が200万円しかなく、思い切った活動ができない
- ・協力隊の経費として200万円が認められているものの、行政により温度差があり、積極的な運用がやりづらい。承認に時間がかかる
- ・3年後の定住/就業/起業を見越した取り組みをしたいが、公務・個人事業のバランスがとりにくい
- ・協力隊によるスキルの差、意識の差が大きい

③地域：

- ・地域おこし協力隊は、単なる地域サポートとして認識する人が多い
- ・地域により活性化に関する温度差がある
- ・地域活性化を望んでいるがどのようにすすめていけばいいかわからない

活性化を成功させていくには「行政」「（主に）協力隊」「地域」の3者をいかにコーディネートしていくかが大事だと感じます。

そのためには、第三者の目線が大切であり、現状の協力隊・活性化に抜けている1番の問題点です。「地域サポート人アドバイザー」として、徹底した「現場主義」ご支援していきたいと思います。

得意分野は「アドバイザー可能な分野」にとりまとめております。

これまでの経験を生かした様々なアドバイスとともにいかに地域を巻き込むのかを、仮説検証を繰り返しながら現場で実践していきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。